

受 験 番 号	学 部	番
------------	-----	---

1

総 合 問 題 解 答 用 紙

1

問 1	1)	CP	2)	A	3)	AC
	4)	NP	5)	FC		

問 2	1)	e	2)	a	3)	b
	4)	c	5)	d		

問 3	1)	e	
	2)	<p>CP：厳格な両親のもとに育てられ、立派な医師にならなくてはならないという「支配的親：CP」の自我状態が非常につよく、それによって現在も悩まされている様子がうかがえる。</p> <p>NP：CPの強さから、自分に対する許し、すなわち「NP：養育的親」が低下している状態と考えられる。一方で「人を助けたい」というNPもうかがえる。</p> <p>A：自己を客観的にみて「うつ病であることを心配している」という点では、比較的大人になった人間としての資源を動員している「A：成人」と考えられるが、CPやACほど強くはないと考えられる。</p> <p>FC：現在の大学生活に楽しみを見つけれられていない。また将来について、医師にもいろいろな形があるし、たとえ医師にならなくとも幸福になることができるという「自由な発想」がうかがえない。そのため「FC：自由な子供」は最も低下していると考えられる。</p> <p>AC：医師になって親の言う通りの人生を歩まなければならないという「AC：順応した子供」が強くうかがえる。また、友人と比較して自分が劣っていると気にしたり、「周囲からどう思われるか」という心配性のつよさからもACの高さが予想される。</p>	

小 計	
--------	--

受 験 番 号	学 部	番
------------	-----	---

総 合 問 題 解 答 用 紙

2

問 1	アイスクリームの売り上げ上昇と水死者数の増加。
問 2	これまで、タバコ産業は、タバコと肺がんの関連性を否定するために、相関性のある証拠を否定することに頼ってきたが、それはタバコ産業を代表して頻繁に登場する統計学者も同様であった。
問 3	Correlation は、相関関係のことで、事象 A と事象 B の事柄になんらかの関連性があるものである。Causation は、因果関係のことで、事象 A を原因として事象 B が変動すること。
問 4	正しくない。 理由：二重盲検法を行っているか、すなわち、患者は何をもらっているのかわからず、研究者は何を与えているのかわからないような実験設定をしているかわからないので。
問 5	生徒 360 人を 3 群（各 120 人）に分け、以下の実験を行う。各群で同じ実験を行う。120 人のうち、60 人には、砂糖入りキャンディを、残りの 60 人には、甘さが同等の人工甘味料入りキャンディを摂取させる。その後、運動場で、自由に運動してもらおう。動画撮影、活動量計あるいはスマホを利用して、各生徒の活動性を測定することで、生徒が活発かどうかを評価する。砂糖入りキャンディを摂取した生徒のうち活発だった生徒の割合と砂糖無添加のキャンディを摂取した生徒のうち活発だった生徒の割合を、各群で比較することで、砂糖摂取と活動性の因果関係を確認する。
問 6	性差についての考慮。本人の同意、保護者の了承、被験者の緊急時に対する対応、医療関係者の待機など。

小	
計	